

2024年5月29日

生活協同組合パルシステム東京様

ペシャワール会

2002年9月のご支援以来、長きに亘り当会のアフガニスタンにおける支援活動にご理解と多大なるご援助を賜りまして、ありがたく厚く御礼申し上げます。

貴組合をはじめ多くの方々のご支援により、中村医師の逝去後も現地 PMS（ピース・ジャパン・メディカル・サービス）の医療・灌漑・農業事業は、順調に続けております。

活動地であるアフガン東部では、干ばつが進行する中、2003年に着手した総合的農村復興計画「緑の大地計画」により、現在では灌漑面積が23,800haになり、70万人以上の人々の生活が維持されています。

お寄せいただきました組合員皆様からの平和カンパ1,251,899円はPMSの活動に有効に使わせていただきましたことをご報告しますとともに深く感謝申し上げます。

2023年度の現地プロジェクトは以下の通りです。

《2023年度プロジェクト報告》

1. 医療事業

2023年度も前年度に引き続き、アフガニスタン東部山岳地にあるPMSのダラエヌール診療所で、24時間対応できる診療体制を維持しています。1991年に開設されたこの診療所では、一般診療に加え母子健康保健向上のため女性職員による妊産婦の保健指導、ワクチン部門では乳児や児童を対象に予防接種を積極的に実施、結核対策も行なっています。地域に根ざした診療活動は、住民からの信頼を集めています。

今年度は診療所の排水設備が大々的に損傷したことを機に、手狭になってきた診療所を一部改装しました。

2024年1月にはナンガラハル州の保健局長や知事からハンセン病対策への協力要請がありました。中村医師の事業の端緒となったハンセン病診療に再び取り組む検討が始まりました。（年間診療数約50,000人）

2. 灌漑事業

2023年度は以下の事業を手がけました。堰や用水路などの建設に関しては、日本側の技術支援チームと連携をとりながら慎重に事業を進めています。

〈マルワリードI堰・用水路改修〉

2019年度から5年計画でマルワリードI堰・用水路（2010年完工）の改修工事を実施しています。2023年度はコンクリート製の土砂吐きを建設したほか、取水門を二門増設し、それに伴い用水路の拡幅を行いました。改修工事は用水路床面へのソイルセメントによるライニング工施工を残すのみとなり、2024年末完工を目指しています。

〈バラコット灌漑事業〉

2022年10月に着工したバラコット用水路が2024年3月に完工しました。PMSの活動地から離れた州南部のコット郡で、スピングアル山脈の雪解け水を水源とするコット

川と、その周辺の湧水から水を引く初の試みでした。全長 4,300m の用水路により、最大 570 ヘクタールが農地として耕されることとなります。

〈タンギトーチー用水路補修事業〉

2023 年夏の増水期にクナール河沿いの国道が洗掘され、崩壊の危機に陥りました。ナンガラハル州政府から PMS へ、国道とそれに沿って造られた外国資本のタンギトーチー用水路の補修工事をしてほしいと要請がありました。この国道は PMS にとってもクナール河方面の作業地へ向かう際の重要な道路であったため承諾しました。2023 年 10 月に補修工事を開始し、24 年 2 月に完工しました。国道は守られ、用水路の崩壊により一時途絶えていた下流への送水も現在は可能となっています。

3. 農業事業

マルワリード I 用水路最終地点のガンベリ沙漠の試験農場 (約 230ha) で穀類や野菜、果樹を中心に様々な栽培と畜産を続けています。各作業地での植樹を含め 130 万本を超え、大地を緑にし、荒々しい気候変動を少しでも和らげる役割も果たしています。

昨年度に続き 2023 年度も、かつて試みたものの定着しなかったサツマイモ栽培に再挑戦しており、立派に育ったサツマイモが収穫できました。干ばつ下での救荒作物として今後期待されます。

現在アフガニスタンでは、これまでにない規模の干ばつが全土で進行しています。温暖化の影響による局地的豪雨や急速な雪解けにより、干ばつと洪水が繰り返し生じている状況の中で、中村哲医師 (PMS) が長年にわたり確立した、年間を通して安定した水量を取水できる PMS 取水方式はより重要となってきています。

PMS の活動が地域の人々の助けとなるよう、2024 年度も引続き医療・灌漑用水路・農業事業を継続し、どこにも逃れようのない人々が安心して生活できるよう中村哲医師の意志と共に努力して参ります。